



ドナウ公園の桜

背後のビル群には、WHO（世界保健機関）やIAEA（国際原子力機関）の本部等がある。オーストリアは中立国であることから、スイスのジュネーブと並んで国連機関が数多くある。桜は日本から寄贈されたもの

Austria

ウィーン、風車のある景色

——中西 貢

2009年9月からほぼ1年間の在外研究の大半をウィーンで過ごしてきた。最初の1ヶ月ほど短期滞在者用アパートを借りた後、地下鉄2号線「メッセ・プラター」駅近くのアパートに居を定めた。映画「第3の男」で有名な、遠目には巨大な風車のようにも見える大観覧車のあるプラター遊園地の近くである。プラターは広大な公園で、週末には多くの市民が公園内にある遊園地、レストランや広場で、のんびりと休日を過ごしている。プラター遊園地は入場無料で、最新の絶叫マシンから昔懐かしいメリーゴーランドまであり、大人も子供も楽しめる。中には本物の馬のメリーゴーランドなんていう乗り物もある。ウィーク・デーのプラターの緑地には、学校の生徒たちの姿が目立つ。ウィーンの学校の多くには運動場がない。また、学校も含めて全ての建物が同じような建てられ方をしているので、引越後しばらくは近くの学校の存在に気付かなかったほどだ。学校内に運動

施設がないので、週に1、2度、先生に引率されて、体育というかレクリエーションというか、ともかく身体を動かしに生徒達がプラターに行くわけである。生徒のスポーツに関して、日本では学校の放課後に行われるクラブ活動が中心であるのに対し、ヨーロッパでは地域クラブが中心となっている。ウィーンを見る限り、それは理念がどうのこうのというより、学校でスポーツを行うインフラがない

のだから、地域クラブ中心の青少年スポーツとならざるを得なかったように思える。住民登録後に一番驚かされたのは、ウィーン・エナジー社（電気とガスを配給するエネルギー公社）から「契約申込書」が郵送され、そこに「どの電力会社と契約するか？」と書かれてあったことである。EUでは、1997年に発効した「EU電力指令」以降、各国で電力の自由化が進められ、中



Mitsugu Nakanishi profile

経営学部教授(専門は、リスクマネジメント論)

大阪生まれの大阪育ち。京都大学経済学部・大学院修了後、埼玉大学等を経て、1997年より明治大学に勤務。現在に至る

【主な著書】

「継続的オークションにおける入札者行動の分析」
「家計貯蓄率低下の要因分析」など

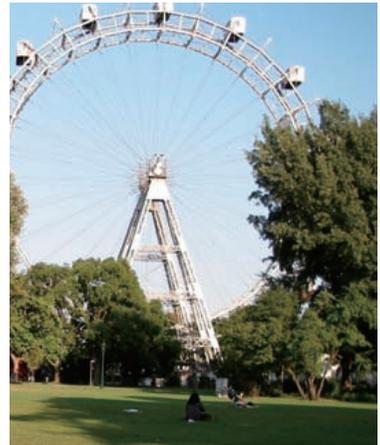
【所属学会など】

日本統計学会、経済統計学会、環太平洋産業連関分析学会



ぶどう畑越しに見るウィーン市街
丘の麓グリツィングには、ホイリゲと呼ばれる造り酒屋が数多くある。ここには転居を繰返したペートーヴェンの住居もあちこちに点在する。写真の左の端の緑がプラターの森、大観覧車もうっすらと見える

大観覧車(リーゼン・ラート)
現存する世界最古の観覧車である



でも、北欧とドイツ、オーストリアは、自由化率100%（指令）の完全実施）となっている。日本で固定式電話の契約先としてNTTやKDDIを自由に選べるのと同じように、オーストリアでは電力会社を選ぶことが出来るのである。オーストリアでは、電力会社は利用したエネルギー源やCO2排出量を年次報告書で消費者に報告することが義務づけられており、消費者が電力会社を選択する際の重要なデータとなっている。もともと私の場合は、契約書の内容を理解し、定められた期日までに最低限記入すべき欄を埋めるのがやっとのことで、10社程ある電力会社をあれこれ調べる余裕などなく、「ウィーン・エナジー社お任せコース」を選択した。電力とガス料金は、リビング、寝室、キッチンの3部屋のアパートに夫婦2人住まいで、1ヶ月平均で合計50ユーロ（6000円弱）ほどであった。夫婦、子供2人の標準世帯で、月50〜100ユーロのことであるから、多くもなく少

なくもなしといったところであろう。

オーストリアはチロル地方を中心に水力が豊富で、全発電電力量の約3分の2を水力発電が占め、さらに小規模水力発電など水力の一層の利用が推進されている。新聞の経済欄に「電力料金が高いドイツ・バイエルン州から、電力料金の安いオーストリア・チロル州に移転する工場が多く、オーストリアの中でチロル州が最高の経済成長率」といった記事が掲載されていたことからすると、豊富な水力のおかげで周辺国と比べて電力料金は安いであろう。



ハルシュタット湖
湖畔には、氷河から流れ出した水を利用した水力発電所がある。険しい山々と湖水(天然のダム)は豊かな水力発電の源である。写真中央左寄りの集落ハルシュタットはユネスコ世界遺産



風力発電用の風車群
プタペスト行き列車の車窓から撮影

風力の活用も増大している。ウィーンはヨーロッパ・アルプスの東端で、ドナウ川沿いの地域は大西洋から吹き付ける北西の風がハンガリー平原に抜ける通り道になっている。強風が吹くというわけではないが、安定した風が吹く。むしろこの方が風力発電には適しているらしい。ウィーン近郊の山やプタペストへ抜ける鉄道や道路からは、風力発電の風車が林立する景色を見ることが出来る。国の電力政策もあるが、グリーン度の高い電力会社を選択する市民の多さが、この景色を生んでいる。